

第3部 公衆衛生情報

目 次

1. 公衆衛生情報の解析提供	-----	(疫学情報)	--	61
2. インターネットホームページによる情報提供	-----	(疫学情報)	--	70
3. 京都市環境情報処理システムの運用	-----	(環 境)	--	71
4. 公衆衛生情報の収集提供	-----	(管 理 課)	--	73

1. 公衆衛生情報の解析提供

疫学情報部門

1) 京都市結核・感染症情報センター業務

(1) 概要

本市における感染症発生動向調査事業は、昭和57年4月から24感染症を対象に開始され、コンピュータ・オンラインシステムの導入(昭和62年4月)、対象感染症の増加(順次40感染症まで)、京都市週報の発行など、その充実を図りながら、感染症の発生状況の把握と関係医療機関及び行政機関への情報提供を行い感染症の拡大防止に備えてきた。

平成11年4月には、感染症の発生を予防し、及びそのまん延の防止を図り、もって公衆衛生の向上及び増進を図ることを目的として「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下「感染症法」という。)が施行された。これに伴い、感染症情報(患者情報と検査情報)を全国規模で迅速に収集・分析・提供・公開するためのコンピュータ・オンラインシステムの再構築、積極的な疫学調査(感染症の発生の状況、動向及び原因の調査)の実施など、その体制の充実・強化が図られた。本市においても、地方感染症情報センター機能を担う「京都市感染症情報センター(感染症部門)」を衛生公害研究所に設置し、コンピュータ・オンラインシステムを新たに再構築した。

また、「感染症法」が平成15年11月に改正され、報告の対象とされている感染症が一類から五類に再分類され、全数把握対象感染症58と定点把握対象感染症28の計86感染症(表1-1)となった。全数把握対象感染症は診断した医師から、また定点把握対象感染症は患者定点(表1-2)に指定された市内の133医療機関から保健所を通じ国に報告されることになっている。また、病原体定点としては3医療機関が指定されている。

(2) 患者情報・検査情報の収集及び解析

① 感染症発生動向調査事業実施体制とコンピュータ・オンラインシステム

感染症発生動向調査事業実施体制の概要を図1-1に示す。

市内の医療機関から報告された患者情報は各保健所から、また病原体検査(当所微生物部門及び臨床部門が担当)の情報は衛生公害研究所から、それぞれオンラインシステムにより、国の感染症情報センター(厚生労働省)に送信されている。

コンピュータ・オンラインシステムのうち、厚生労働行

政総合情報システム(WISH)は、国の感染症情報センターと本市の感染症情報センター(衛生公害研究所)・地域医療課・保健所を接続しており、京都市情報の送信と全国情報の受信に使用している。また、外付けオンラインシステムは、衛生公害研究所と地域医療課を接続しており、相互の情報交換に使用している。

機器構成と通信内容等を表1-3に示す。

② データの収集

受信した感染症情報のうち、患者情報は感染症発生動向調査システム(Ver3. B0)のデータベースに、検査情報は感染症検査情報オンラインシステム(Ver4. 61)のデータベースに取り込み、その他の関連情報は接続コンピュータのハードディスクに保存している。

③ データの集計・解析

表1-4に示すように、データベースから取り出した患者情報データを、Excel VBA マクロにより作成した集計プログラムを使用して集計し、行政区別感染症別報告数・定点当たり報告数などの基本集計表を作成している。

a. 週報、月報及び行政区別感染症情報

定型部分は、基本集計表のデータを使用して更新している。コメント文、トピックスなど定型外の部分はその都度作成している。

b. ホームページ上の感染症発生動向調査情報

基本集計表のデータから年推移のグラフ等を作成、HTMLファイルに変換し、京都市のインターネットサーバに送信している。

c. 事業実施報告書

基本集計表から年間の集計データを作成し、過去8年と比較した図表等を作成している。コメント文など定型外の部分は別途作成している。更に、報告書の事業編をPDFファイルに変換し、京都市のインターネットサーバに送信している。

(3) 提供情報の内容と提供先

① 週報

A4版6ページで毎週構成し、発行しており、1ページ目には全数報告感染症の概要、上位定点報告感染症の報告数、検出された病原体の概要、コメント、2ページ目にはインフルエンザまたは腸管出血性大腸菌感染症及び上位定点報告感染症の発生状況、3ページ目には最近流行している感染症のトピックス、4ページ目には行政区・感染症別

表1-1 京都市結核・感染症発生動向調査事業の対象感染症

1 全数把握の一類、二類、三類感染症

感染症の種類	疾病名	対象となる者の状態
一類感染症	(1) エボラ出血熱	患者 疑似症患者 無症状病原体保有者
	(2) クリミア・コンゴ出血熱	
	(3) 重症急性呼吸器症候群 (病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る)	
	(4) 痘そう	
	(5) ペスト	
	(6) マールブルグ病	
	(7) ラッサ熱	
二類感染症	(8) コレラ	患者 無症状病原体保有者
	(9) 細菌性赤痢	
	(10) 腸チフス	
	(11) パラチフス	
	(12) 急性灰白髄炎	
三類感染症	(13) ジフテリア	患者 無症状病原体保有者
	(14) 腸管出血性大腸菌感染症	

2 全数把握の四類感染症

(15) E型肝炎	(30) デング熱
(16) ウィストニル熱 (ウィストニル脳炎を含む)	(31) ニパウイルス感染症
(17) A型肝炎	(32) 日本紅斑熱
(18) エキノコックス症	(33) 日本脳炎
(19) 黄熱	(34) ハンタウイルス肺症候群
(20) オウム病	(35) Bウイルス病
(21) 回歸熱	(36) ブルセラ症
(22) Q熱	(37) 発しんチフス
(23) 狂犬病	(38) ボツリヌス症
(24) 高病原性インフルエンザ	(39) マラリア
(25) コクシジオイデス症	(40) 野兎病
(26) サル痘	(41) ライム病
(27) 腎症候性出血熱	(42) リッサウイルス感染症
(28) 炭疽	(43) レジオネラ症
(29) つつが虫病	(44) レプトスピラ症

3 全数把握の五類感染症

(45) アメーバ赤痢	(52) ジアルジア症
(46) ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く)	(53) 髄膜炎菌性髄膜炎
(47) 急性脳炎 (ウィストニル脳炎及び日本脳炎を除く)	(54) 先天性風疹症候群
(48) クリプトスポリジウム症	(55) 梅毒
(49) クロイツフェルト・ヤコブ病	(56) 破傷風
(50) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	(57) パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症
(51) 後天性免疫不全症候群レジオネラ症	(58) パンコマイシン耐性腸球菌感染症

全数把握とは、すべての医療機関が届出の対象である。

4 定点把握の五類感染症

(59) R S ウイルス感染症	(73) 急性出血性結膜炎
(60) 咽頭結膜熱	(74) 流行性角結膜炎
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	(75) 性器クラミジア感染症
(62) 感染性胃腸炎	(76) 性器ヘルペスウイルス感染症
(63) 水痘	(77) 尖圭コンジローマ
(64) 手足口病	(78) 淋菌感染症
(65) 伝染性紅斑	(79) クラミジア肺炎(オウム病を除く)
(66) 突発性発しん	(80) 細菌性髄膜炎
(67) 百日咳	(81) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
(68) 風しん	(82) マイコプラズマ肺炎
(69) ヘルパンギーナ	(83) 成人麻疹
(70) 麻疹(成人麻疹を除く)	(84) 無菌性髄膜炎
(71) 流行性耳下腺炎	(85) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
(72) インフルエンザ (高病原性インフルエンザ)	(86) 薬剤耐性緑膿菌感染症

定点把握とは、指定届出機関が届出の対象である。

表 1-4 患者情報データの基本集計表一覧

京都市週報データ	元データ	京都市週単位定点報告感染症の定点別年齢階級別データ(CSV形式)
	集計表	T3201表(行政区別感染症別報告数・定点当たり報告数), T3202表(年齢階級別感染症別報告数・定点当たり報告数), T3203表(週別感染症別報告数・定点当たり報告数(6週分))
全国週報データ	元データ	全国及び京都府の全数及び週単位定点報告感染症の集計結果(CSV形式)
	集計表	T3101表(都道府県別全数報告感染症別報告数), T3102表(都道府県別定点報告感染症別報告数・定点当たり報告数), 他14表 T3109表(京都府保健所別全数報告感染症別報告数), T3110表(京都府保健所別定点報告感染症別報告数・定点当たり報告数)
京都市月報データ	元データ	京都市月単位定点報告感染症の定点別年齢階級別データ(CSV形式)
	集計表	T3205表(行政区別感染症別報告数・定点当たり報告数), T3206表(年齢階級別感染症別報告数・定点当たり報告数), T3207表(昨年及び今年の月別感染症別報告数・定点当たり報告数)
全国月報データ	元データ	全国の月単位定点報告感染症の集計結果(CSV形式)
	集計表	T3121表(都道府県別感染症別報告数・定点当たり報告数), T3122表(年齢階級別感染症別報告数・定点当たり報告数), 他6表

(報告数・定点当たり報告数), 5 ページ目には年齢階級・感染症別(報告数・定点当たり報告数), 6 ページ目には今週及び過去5週分の感染症別(報告数・定点当たり報告数)を掲載している。1 ページ及び2 ページの抜粋の一例を図1-2に示す。

また, 月末の週の週報には, 全数報告の感染症及び検出された病原体の概要, 該当する月に報告のあった一類から五類の全数報告感染症の発生状況一覧及び検出された病原体詳細情報一覧の3 ページを加えている。

②月報

A4版3ページで月1回構成し, 発行しており, 性感染症4疾患と薬剤耐性菌感染症3疾患の発生状況とコメント, 行政区・感染症別(報告数・定点当たり報告数), 年齢階級・感染症別(報告数・定点当たり報告数)を掲載している。

「週報」及び「月報」は地域医療課を通じて, 関係医療機関及び行政機関へ提供している。

③行政区別感染症情報

A4版1ページで月1回構成し, 発行しており, 定点報告感染症発生状況と定点医療機関からの報告数について, 地域の特徴が分かるように一覧表にし, 地域医療課を通じ

て各保健所に提供している。

④ホームページの感染症発生動向調査情報

週毎の定点報告感染症発生状況(年齢別発生数, 週別推移, 上位感染症の発生数, インフルエンザウイルス検出情報), 腸管出血性大腸菌感染症発生状況(月別発生者数, 菌型別発生者数, 年齢別発生者数)を当研究所のホームページ(<http://www.city.kyoto.jp/hokenfukushi/eikouken/>)に掲載し, 医療関係者及び市民に提供している。一部を図1-3に示す。

⑤事業実施報告書

毎年, 地域医療課及び当所微生物部門と協同で作成している報告書は, 実施要綱, 実施要領, 定点医療機関名簿等の組織編, 感染症の発生状況を患者情報と検査情報について解析した事業編及び資料編の3部で構成されており, 定点医療機関, 京都府医師会及び関係行政機関等に配布している。更に, 事業編については, ホームページ上にも掲載している。

(4) 発生状況の概要

平成15年の感染症発生状況については, 表1-5, 1-6, 1-7, 1-8のとおりである。

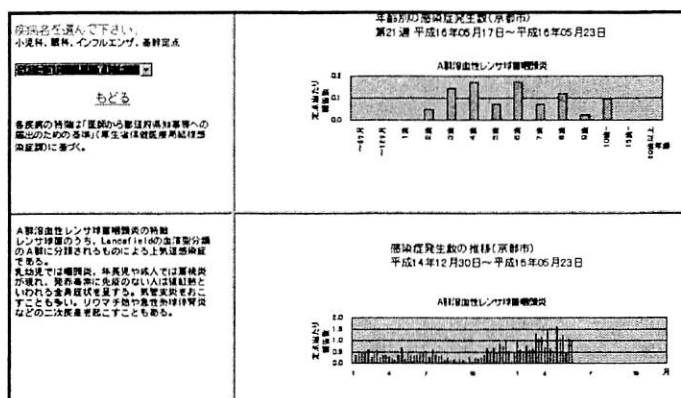


図 1-3 ホームページの感染症発生動向調査情報の例

感染症発生動向調査 京都市週報

感染症情報は京都市衛生公害研究所ホームページ
(<http://www.city.kyoto.jp/hokenfukushi/eikouken/index.html>)にも掲載しています。

全国の感染症発生動向調査週報・月報PDF版は国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ
(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)に掲載されており、Adobe Acrobat Reader 日本語版
(<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep.html>)から無料でダウンロードする)により見ることができます。

平成15年第週

平成15年12月15日～平成15年12月21日

(インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

◆ 全数報告の感染症

- ☆ 三類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症(O157 VT2) 2例
 - 性・年齢: 男児2歳, 症状: 嘔気・嘔吐・下痢,
 - 推定感染地域: 国内, 推定感染経路: 不明
 - 性・年齢: 男児5歳, 症状: 無し,
 - 推定感染地域: 国内, 推定感染経路: 焼肉
- ☆ 五類感染症: 梅毒(早期顕症梅毒) 1例
 - 性・年齢: 男性61歳, 症状: 発疹,
 - 推定感染地域: 国内, 推定感染経路: 性行為感染(異性間)

◆ 定点報告の主な感染症

☆ インフルエンザ定点の感染症	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	0.12	8
☆ 小児科定点の感染症	定点当たり報告数	報告数
① 感染性胃腸炎	12.56	515
② 水痘	2.24	92
③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.95	39
④ 突発性発しん	0.39	16
⑤ 流行性耳下腺炎	0.20	8
☆ 眼科定点の感染症	定点当たり報告数	報告数
流行性角結膜炎	0.30	3
☆ 基幹定点の感染症	定点当たり報告数	報告数
マイコプラズマ肺炎	1.00	1

◆ 病原体情報(第週判明分)

臨床診断名(採取週)	検出病原体	報告数
インフルエンザ(第48週)	コクサッキーウイルスA9型	1
インフルエンザ(第50週)	コクサッキーウイルスB3型	1
インフルエンザ(第49週)	RSウイルス	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(第47週)	アデノウイルス3型	1

◆ 今週のコメント

インフルエンザの定点当たり報告数は0.12で、同時期の過去5年平均値(1.45)をかなり下回っています。

主な感染症(小児科・眼科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

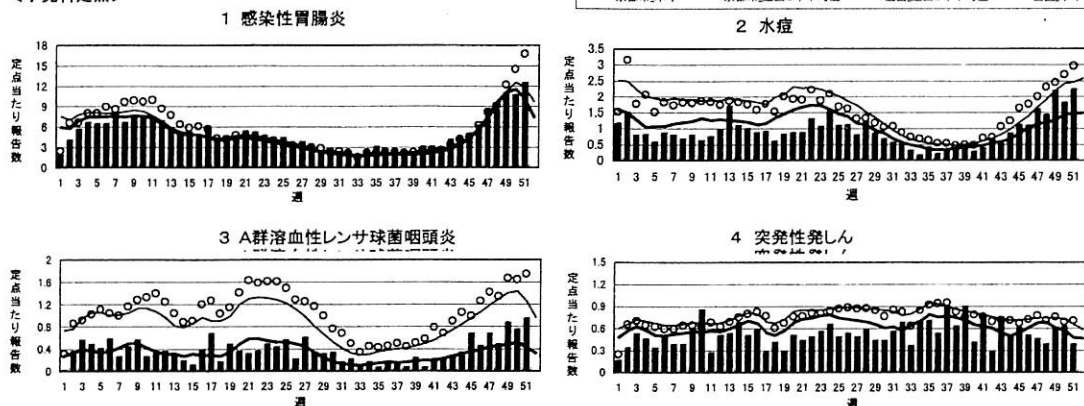


図1-2 「週報」1ページ目と2ページ目の抜粋

表1-5 全数把握感染症の月別報告数(平成15年1月~12月)

全数把握対象感染症		合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
二類	コレラ	1								1				
	細菌性赤痢	15	1	-	2	2	1	-	-	2	5	1	1	-
	ソンネ	10	1		1	1	1				5		1	
	ディセンテリ	1								1				
	フレキシネル	2			1							1		
	ボイド	2				1				1				
	腸チフス	5									3	2		
三類	腸管出血性大腸菌感染症	101	3	-	-	3	-	2	5	9	11	3	51	14
	O 26	5				3			1				1	
	O157	96	3					2	4	9	11	3	50	14
四類	E型肝炎	1					1							
	A型肝炎	5			1	2						1		1
	デング熱	1				1								
	マラリア	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	三日熱	1		1										
	熱帯熱	1										1		
	レジオネラ症	3							1		1	1		
五類	アメーバ赤痢	8				1	1		1			1	2	2
	ウイルス性肝炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
	B型	1											1	
	C型	1											1	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2	1			1								
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3	1	1	1									
	後天性免疫不全症候群	11	-	2	1	1	1	1	1	-	1	3	-	-
	無症候性キャリア	7		1			1	1			1	3		
	AIDS	2		1		1								
	その他	2			1				1					
	ジアルジア症	6						2	1	1	1			1
	梅毒	21	1	3	5	1	-	3	-	2	2	3	-	1
	早期顕症梅毒	12		3	4			1		1	2			1
	晩期顕症梅毒	2			1							1		
	無症候梅毒	7	1			1		2		1		2		
	破傷風	1			1									
五類感染症 合計		54	3	6	8	4	2	6	3	3	4	7	4	4

表1-6-1 定点把握五類感染症の報告数(週報対象感染症)
(平成15年第1週～52週)

月・週	感染症名	インフルエンザ定点	小児科定点												
		インフル エンザ	RS ウィルス	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	風疹	ヘルパンギーナ	麻疹	流行性耳下腺炎
定点数		68	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41
1月	1	236		7	1	78	48	2	1	7	-	-	-	-	10
	2	779		-	15	167	62	1	1	14	-	-	1	-	15
	3	964		2	23	232	33	2	3	22	2	1	-	-	6
	4	1,423		1	20	274	34	9	-	19	-	-	-	1	14
	5	1,349		-	17	265	24	6	-	14	1	-	1	-	5
2月	6	1,221		-	24	267	36	8	-	20	-	-	-	5	7
	7	920		-	11	327	33	5	1	16	1	-	1	2	10
	8	877		2	18	274	28	11	1	16	-	1	2	5	10
	9	758		-	23	313	33	7	2	25	-	5	2	1	3
3月	10	476		-	11	294	26	2	-	35	2	-	1	5	9
	11	346		2	13	290	31	14	1	11	-	-	-	-	15
	12	221		1	15	284	40	10	1	21	-	-	-	5	9
	13	119		1	12	244	70	14	1	22	-	1	-	1	8
	14	26		1	8	205	45	9	1	28	-	-	1	3	5
4月	15	8		-	5	215	41	7	1	21	-	-	-	-	14
	16	6		1	16	185	36	6	1	24	-	1	3	1	9
	17	6		2	28	237	38	17	-	12	1	2	4	1	12
5月	18	1		3	7	168	25	14	1	17	-	-	3	1	13
	19	2		2	20	190	34	10	4	12	-	1	3	2	8
	20	-		3	15	192	36	10	2	21	-	1	4	-	16
	21	1		5	13	222	36	18	2	18	1	2	15	1	15
6月	22	1		-	15	215	54	41	3	20	3	-	15	4	20
	23	-		6	20	195	44	34	3	23	-	-	20	6	15
	24	-		3	18	172	63	40	2	27	-	-	30	5	10
	25	-		5	23	183	45	72	6	20	-	-	36	5	10
	26	-		7	11	133	54	84	-	23	-	3	94	3	16
	27	-		11	25	158	33	138	8	20	-	-	104	4	14
7月	28	-		10	14	137	50	134	9	24	-	9	143	1	35
	29	-		13	13	101	35	186	3	18	1	-	185	4	26
	30	1		11	14	113	28	117	2	18	-	1	106	2	13
	31	-		6	7	97	23	88	2	23	1	6	91	2	12
8月	32	-		18	9	95	22	60	1	28	-	-	58	1	10
	33	-		23	5	82	13	34	1	15	-	1	39	-	11
	34	-		12	7	104	7	31	2	28	-	1	19	1	13
	35	-		16	3	129	17	37	1	29	1	-	32	-	4
9月	36	-		10	6	109	9	26	2	22	1	2	24	1	9
	37	-		8	5	107	12	18	6	37	-	-	17	-	8
	38	-		10	3	100	14	25	3	26	1	-	11	-	9
	39	-		8	10	95	14	11	3	37	-	-	9	-	9
10月	40	-		4	3	128	12	4	2	17	-	-	3	-	8
	41	-		4	9	143	19	8	6	33	-	-	2	-	9
	42	-		-	8	124	28	-	5	12	-	-	2	-	8
	43	-		-	11	170	21	8	5	31	2	-	1	1	10
11月	44	1		1	14	185	35	12	5	20	-	-	4	-	11
	45	-		6	28	209	46	7	3	25	-	-	1	-	12
	46	2		1	-	19	255	45	3	9	21	-	2	-	21
	47	3		-	3	28	354	66	2	5	19	-	-	-	18
12月	48	-		-	1	20	346	59	2	3	16	-	-	-	12
	49	2		1	3	36	455	90	4	5	25	-	4	-	13
	50	4		-	-	31	441	75	8	4	26	-	-	1	19
	51	8		1	-	39	515	92	4	3	16	-	-	1	8
	52	13		1	-	22	436	72	3	7	22	1	-	1	8
	年間合計	9,774	4	232	791	11,009	1,986	1,423	143	1,116	19	39	1,098	74	614

表 1-6-2 定点把握五類感染症の報告数（週報対象感染症）
（平成15年第1週～52週）

月・週	感染症名	眼科定点		基幹定点						
		急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎 （日本脳炎を除く）	細菌性髄膜炎 （真菌性を含む）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 （オウム病を除く）	成人麻疹	
定点数		10	10	1	1	1	1	1	1	1
1月	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2	-	6	-	-	-	-	-	-	-
	3	-	7	-	-	-	-	-	-	-
	4	-	3	-	-	-	-	-	-	-
	5	1	8	-	-	-	-	-	-	-
2月	6	-	3	-	-	-	-	-	-	-
	7	-	6	-	-	-	-	-	-	-
	8	-	7	-	-	-	-	-	-	-
	9	-	7	-	-	-	-	-	-	-
3月	10	-	6	-	-	-	-	-	-	-
	11	-	2	-	-	-	-	-	-	-
	12	-	7	-	-	-	-	-	-	-
	13	-	12	-	-	-	-	-	-	-
	14	-	5	-	-	-	-	-	-	-
4月	15	-	9	-	-	-	-	-	-	-
	16	-	10	-	-	-	-	-	-	-
	17	-	5	-	-	-	-	-	-	-
	18	-	6	-	-	-	1	-	-	-
5月	19	1	8	-	-	-	-	-	-	-
	20	-	3	-	1	-	1	-	-	-
	21	-	7	-	-	-	-	-	-	-
	22	-	11	-	-	-	-	-	-	-
6月	23	1	14	-	-	-	-	-	-	-
	24	-	19	-	-	-	-	-	-	-
	25	-	10	-	-	-	-	-	-	-
	26	-	24	-	-	-	-	-	-	-
	27	-	10	-	-	-	-	-	-	-
7月	28	-	11	-	-	-	1	-	-	-
	29	-	17	-	-	-	-	-	-	-
	30	-	12	-	-	-	-	-	-	-
	31	-	20	-	-	-	-	-	-	-
8月	32	-	18	-	-	-	-	-	-	-
	33	-	9	-	-	-	-	-	-	-
	34	-	11	-	-	-	-	-	-	-
	35	1	14	-	-	-	-	-	-	-
9月	36	-	13	-	-	-	-	-	-	-
	37	-	30	-	-	-	-	-	-	-
	38	-	31	-	-	-	1	-	-	-
	39	-	28	-	-	-	-	-	-	-
	40	-	27	-	-	-	1	-	-	-
10月	41	-	18	-	-	-	-	-	-	-
	42	-	17	-	-	-	-	-	-	-
	43	1	14	-	-	-	-	-	-	-
	44	3	10	-	-	-	1	-	-	-
11月	45	1	12	-	-	-	2	-	-	-
	46	1	10	-	-	-	-	-	-	-
	47	-	5	-	-	-	-	-	-	-
	48	1	2	-	-	-	-	-	-	-
12月	49	-	7	-	-	-	-	-	-	-
	50	-	3	-	-	-	-	-	-	-
	51	-	3	-	-	-	1	-	-	-
	52	-	6	-	-	-	-	-	-	-
年間合計		11	568	-	1	-	9	-	-	-

表 1-7 定点把握五類感染症の報告数（月報対象感染症）
（平成15年1月～12月）

月	感染症名	性感染症定点				基幹定点		
		性器クラミジア感染症	性器ヘルペスウイルス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	薬剤耐性緑膿菌感染症
定点数		13	13	13	13	1	1	1
1月	24	9	-	-	8	-	-	-
2月	19	3	3	3	3	2	-	-
3月	24	11	1	4	4	-	-	-
4月	16	6	3	5	8	1	-	-
5月	29	5	2	8	7	-	-	-
6月	41	8	2	7	7	-	-	-
7月	34	12	3	2	2	2	-	-
8月	34	3	2	4	-	-	-	-
9月	40	8	2	3	-	-	-	-
10月	30	13	2	5	-	-	-	-
11月	36	17	4	12	1	-	-	-
12月	32	12	4	10	-	-	-	-
年間	359	107	28	67	6	-	-	-

表 1-8-1 行政区別定点当たり報告数（定点把握対象五類感染症）

行政区	感染症名	小児科定点													
		インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	変異性熱しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻疹（成人麻疹を除く）	流行性耳下腺炎
北		108.29	-	3.50	8.00	162.00	16.50	15.00	2.50	9.25	-	0	20.00	0.75	0.50
上京		130.20	-	2.33	17.33	158.33	22.00	25.33	1.33	23.67	-	1.33	24.67	1.00	4.00
左京		59.86	-	3.25	9.50	229.75	32.00	25.25	3.75	23.50	-	3.00	17.25	0.25	1.75
中京		209.60	0.67	4.33	24.00	196.00	86.00	62.67	6.33	34.00	1.00	-	41.00	2.00	23.33
東山		204.33	1.00	16.50	31.50	554.00	111.50	26.00	1.00	36.50	2.00	0.50	56.50	7.50	21.50
山科		168.86	-	5.75	5.25	166.75	55.25	30.25	1.25	20.25	0.25	1.50	35.00	0.25	17.75
下京		59.33	-	-	-	31.00	7.50	3.50	-	6.00	-	0.50	8.50	-	3.00
南		280.20	-	17.33	59.33	611.67	96.67	71.67	2.67	29.67	1.33	-	72.00	2.33	31.67
右京		38.38	-	3.00	6.40	204.80	25.20	20.00	6.20	21.00	-	-	8.00	0.20	5.20
伏見		77.55	-	1.14	11.71	176.29	36.57	25.43	1.86	26.43	0.86	2.00	20.00	5.29	19.86
西京		337.71	-	13.50	55.25	612.25	84.25	81.25	9.00	66.75	0.25	-	23.00	-	35.75
全体		143.74	0.10	5.66	19.29	268.51	48.44	34.71	3.49	27.22	0.46	0.95	26.78	1.80	14.98

表 1－8－2 行政区別定点当たり報告数（定点把握対象五類感染症）

行政区	感染症名	眼科定点		性感染症定点				基幹定点									
		急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	性器クラミジア感染症	性器ヘルペスウイルス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	急性脳炎（日本脳炎を除く）	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 （オウム病を除く）	成人麻しん	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	肺炎球菌感染症	ペニシリン耐性	薬剤耐性緑膿菌感染症
北 上京 左京 中京 東山 山科 下京 南 右京 伏見 西京	1.00	7.00	2.00	5.00	1.00	-											
	7.00	21.00	7.00	9.00	4.00	5.00											
	1.00	18.00	8.00	2.00	6.00	3.00											
	-	30.00	10.00	2.00	0.50	2.50	-	1.00	-	9.00	-	-	6.00	-	-		
			101.00	13.00	5.00	14.00											
	1.00	106.00	33.00	1.00	-	3.00											
			129.00	22.00	1.00	19.00											
			38.00	16.00	2.00	4.00											
	-	171.00	-	3.00	-	-											
	0.50	76.00	7.00	8.50	1.00	6.00											
-	31.00	7.00	15.00	6.00	2.00												
全体	1.10	56.60	27.62	8.23	2.15	5.15	-	1.00	-	9.00	-	-	6.00	-	-		

備考：定点当たり報告数とは報告数を定点数で割ったものである。

2) その他

(1) 平成13年国民生活基礎調査（京都市分データ）の解析

①目的

国民生活基礎調査は、国民の保健、医療、福祉、所得など国民生活の基礎的事項を調査し、厚生行政の企画及び運営に必要な基礎資料を得ることを目的として、国により実施されているものであり、昭和61年を初年として3年ごとに大規模な調査が、中間の各年は追加調査が実施されている。

平成13年に実施された大規模調査の結果については、京都市保健福祉局保健福祉総務課を通じて、国から「世帯編」及び「健康編」の京都市分データの還元を受け、京都市民の健康状態などについて解析をする。

②調査対象

国民生活基礎調査は、全国の世帯及び世帯員を対象とし、世帯票及び健康票については、平成7年国勢調査区から層化無作為抽出した5,240地区内の全ての世帯（約28万世帯）及び世帯員（約78万人）を客体としている。

そのうち、京都市分は2,327世帯、5,598人であった。

③調査実施日

平成13年6月7日（木）

④調査項目

a. 世帯票

世帯主との続柄、性、出生年月、配偶者の有無、医療保険加入状況、就業の状況、公的年金の加入状況、乳幼児の

日中における保育、住居の状況、平成13年5月中の家計支出額の状況 など

b. 健康票

入院・入所の状況、自覚症状、通院・通所の状況、日常生活への影響、悩みやストレスの状況、健康診断等の受診状況、健康の維持・増進のために日頃から実行している事柄 など

⑤調査方法

世帯票については、調査員が世帯を訪問し、面接聞き取りの上、調査票に記入する方法により行われた。健康票については、あらかじめ調査員が配布した調査票に世帯員自らが記入し、後日、調査員が回収する方法により行われた。

⑥集計方法

入手した京都市分データ（MO 1枚 固定長フィールド形式テキストファイル）を Microsoft Access に取り込み集計を行った。計算及び作表には、Microsoft Excel を使用した。

⑦集計及び取りまとめ

世帯では、世帯・世帯員、住居・家計支出、公的年金・恩給等について、健康では、世帯員の健康状況（有訴者の状況、通院者の状況、日常生活への影響、健康状態、健康意識、悩みやストレスの状況、健康診断等の受診状況）等について、集計、解析を行いグラフ、表、コメントを作成し、報告書「平成13年 国民生活基礎調査 京都市の概況」として取りまとめた。

[集計例1]

表1-9 世帯の状況

	京都市				全国
	平成4年	平成7年	平成10年	平成13年	平成13年
世帯数(千世帯)	562	548	558	595	45,664
平均世帯人員(人)	2.53	2.60	2.57	2.41	2.75
平均有業人員(人)	1.18	1.21	1.16	1.15	1.38
有業率(%)	46.6	46.4	45.1	47.7	50.2
持ち家率(%)	52.0	56.9	61.1	56.4	63.7
入院者のいる世帯の割合(%)	2.3	2.9	2.3	3.0	3.3
通院者のいる世帯の割合(%)	51.2	50.4	50.9	51.7	56.8
平均家計支出額(万円)	23.1	26.9	29.9	28.1	28.4

(注1)平成4～13年京都市世帯数は「国民生活基礎調査」(厚生統計協会)より引用。

(注2)「入院者」とは、病院、診療所又は老人保健施設(平成13年は介護保険施設)に入院又は入所している者をい

[集計例2]

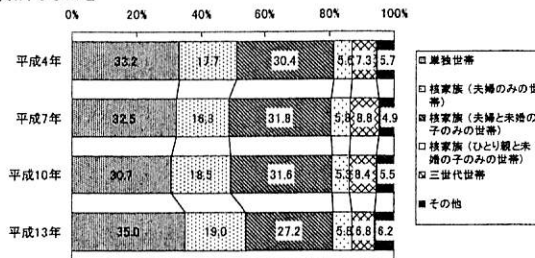


図1-4 世帯構造別世帯数構成割合の推移

(2) 平成15年度公共施設等の受動喫煙防止対策実態調査(アンケート)の解析

①調査機関

保健福祉局健康増進課が企画し、事務局となって実施した。

なお、疫学情報部門ではデータ入力、集計及び解析を担当した。

②目的

京都市内の施設における分煙・禁煙状況の実態を把握し、今後の分煙対策を進める基礎材料にするとともに、施設の管理者に対し、多数の者が利用する施設を管理する者は、これらを利用する者について、受動喫煙を防止するために必要な措置を講ずるよう努めなければならないと定められた健康増進法第25条の周知の機会とする。

③集計客体数

1,513件

④回収率

50.8%

⑤結果

市内の公共機関や病院などで積極的な全面禁煙が進められる一方、特に飲食店では分煙さえ実施されていない施設が7割を占めるなど、業種の違いによる意識の差が大きいことが明らかとなった。

⑥まとめ

この調査の結果を受け京都市では、対策の進んでいない業種を中心としたビラの配布や、青少年の喫煙防止対策などを柱とした指針の作成などを行う予定である。

なお、本調査の結果の詳細については、保健福祉局健康増進課が「平成15年度公共施設等の受動喫煙防止対策実態調査報告書」としてとりまとめ、冊子として発行している。

2. インターネットホームページによる情報提供

疫学情報部門

1) 目的

試験検査、調査研究、監視指導活動、感染症発生動向調査など衛生公害研究所の事業内容及び関連する公衆衛生情報を広く公開するため、平成9年10月から、京都市ホームページ内に衛生公害研究所のホームページを開設している。

2) 内容

- (1) トピックス
- (2) 仕事内容の紹介
- (3) 腸管出血性大腸菌O157の検出方法
- (4) 感染症発生動向調査(市内分)
- (5) 腸管出血性大腸菌感染症発生状況(市内分)
- (6) 花粉情報
- (7) 消費者コーナーニュース
- (8) 京都市衛生公害研究所年報

表2 ホームページへの閲覧回数(年間総数)

内 容	平成15年度 閲覧回数
生活習慣病予防指針	249,003
京都市衛生公害研究所年報	72,902
消費者コーナーニュース	29,883
京都市エイズ情報	22,534
感染症発生動向調査(市内分)	20,697
仕事内容の紹介	11,928
京都市感染症発生動向調査事業実施報告書	9,849
花粉情報	7,216
トピックス	4,259
京都市結核情報	3,360
腸管出血性大腸菌O157検出方法	2,164
リンク集	1,642
腸管出血性大腸菌感染症発生状況(市内分)	1,314
O157の感染予防	1,206
ご意見・ご感想	1,056
Contents 詳細	1,053
その他	18,536
合 計	458,602

- (9) 京都市感染症発生動向調査事業実施報告書
- (10) 生活習慣病予防指針（保健福祉局健康増進課からの依頼により作成，掲載）
- (11) 京都市結核情報（保健福祉局地域医療課からの依頼により作成，掲載）
- (12) 京都市エイズ情報（保健福祉局地域医療課からの依頼により作成，掲載）
- (13) O157の感染予防（保健福祉局生活衛生課からの依頼により作成，掲載）
- (14) キーワード検索「ものみやぐら」（京都市ホームページにリンク）
- (15) ご意見・ご感想（電子メールの受付）
- (16) リンク集（地方衛生研究所など関連機関のホームページへのリンク）

3. 京都市環境情報処理システムの運用

環境部門

1) 目的

「京都市環境情報処理システム」は、大気汚染常時監視テレメータシステムで得られた測定結果をコンピュータによって収集、蓄積及び処理を行い、大気汚染を把握するのに必要な情報を適時に提供することによって環境行政の遂行を支援することを目的としている。

2) 方法

本システムは図3－1に示すとおり、大気汚染常時監視テレメータシステムから測定結果を収集するモニタリングシステム並びに収集したデータを蓄積、処理及び加工する情報処理システムの二系列からなる。

モニタリングシステムのハードウェアの構成は図8－1（第2部，P.52）に、情報処理システムの構成について

は図3－2に示すとおりである。

3) 結果

- 平成15年度には、以下のとおり処理を行った。
- ①測定結果については、大気汚染常時監視テレメータシステムで収集した1時間値を入力し、蓄積、整備した。
- ②定期的測定結果（降雨量及び降下ばいじん）の入力を随時行った。
- ③上記のデータを下記の資料などの作成に使用した。
- a. 外部へ提供のための資料（表3）
- b. 大気汚染状況の広報，「京都市の環境」，市会資料及び環境省への報告のための基本資料
- c. 大気測定結果のデータブック

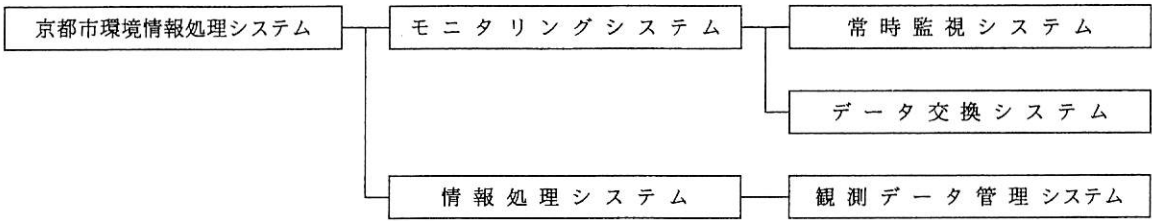


図3－1 環境情報処理システム

表3 資料提供件数

				平成15年度
環境局	環境局以外(市)	国及び府	その他	計
12	3	4	28	47

4. その他の公衆衛生情報の収集提供

管理課

単行本、刊行物（学術雑誌を含む）、各種報告書などを収集・収受し、分類整理して図書室に配架・保管するとともに、所内LANを活用し、購入雑誌の目次・新着図書等を掲載している。（平成15年度掲載件数：300件）

平成15年度の主な購入雑誌は、次のとおりである。

1) 欧文雑誌

Abstracts on Hygiene and Communicable Diseases
American Journal of Epidemiology
American Journal of Tropical Medicine and Hygiene
Archives of Environmental Health
Journal of AOAC International
Bulletin of Environmental Contamination and Toxicology
Journal of Chromatographic Science
Journal of Medical Entomology
Experimental Biology and Medicine
Analytical Chemistry
Journal of Environmental Management
Journal of Air and Waste Management Association
Environmental Science and Technology
Water Environment and Technology

2) 邦文雑誌

ISOTOPE NEWS（アイソトープニュース）
医学のあゆみ
ジャパンフードサイエンス
厚生指標
日本医事新報
日本公衆衛生雑誌
水道協会雑誌
食品衛生研究
蛋白質 核酸 酵素
臨床検査
用水と廃水
公衆衛生
食と健康
消費者
暮らしの手帖
資源環境対策
環境技術
水環境学会誌
省エネルギー
自動車技術
水処理技術
環境と公害
音響技術
環境管理
騒音制御
日本音響学会誌

